

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-28	実施計画番号		事業開始年度	平成27年度
事務事業名	市営住宅の管理方針の検討			事業終了年度	平成27年度
担当課名	都市整備建築課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	市営住宅530戸のうち、老朽化し、耐用年数を経過した団地等の今後の管理方針について検討を行う必要がある。				
事務事業の目的	老朽化した市営住宅の今後の管理方針について検討する。				
実施状況	将来推計人口、国勢調査結果等から市営住宅の必要戸数を推計、建替えるとした場合の家賃額の試算等、管理方針を検討するための資料整理中。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		4	
	活動日数(日)		60	
	人件費(千円)	0	8,640	
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		0	0	

【指標】

活動指標	活動指標名①		老朽化した団地の建替え、廃止等について管理方針の検討を行う			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
					検討するための資料を収集する	
	活動指標名②					
成果指標	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値		決定	
			実績値		決定予定	
		達成度(%)		100%		
成果指標	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">①市営住宅は低収入者向けの住宅であり、ニーズは高い。老朽化した団地について管理方針を検討する必要がある。 ②市営住宅は一般の賃貸住宅に比べ、低家賃となっており、一般の賃貸住宅の家賃を負担するのが難しい方が入居することから競合しない。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	①市営住宅は低収入者向けの住宅であり、ニーズは高い。老朽化した団地について管理方針を検討する必要がある。 ②市営住宅は一般の賃貸住宅に比べ、低家賃となっており、一般の賃貸住宅の家賃を負担するのが難しい方が入居することから競合しない。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
①市営住宅は低収入者向けの住宅であり、ニーズは高い。老朽化した団地について管理方針を検討する必要がある。 ②市営住宅は一般の賃貸住宅に比べ、低家賃となっており、一般の賃貸住宅の家賃を負担するのが難しい方が入居することから競合しない。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③資料収集している。 ④今後、管理方針を決定する。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	③資料収集している。 ④今後、管理方針を決定する。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	③資料収集している。 ④今後、管理方針を決定する。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2						
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑦類似の事業はない。 ⑧建設する場合にPFI等を検討する余地はある。管理の民間委託については個人情報の取扱いもあることから検討していない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	1 / 6	⑦類似の事業はない。 ⑧建設する場合にPFI等を検討する余地はある。管理の民間委託については個人情報の取扱いもあることから検討していない。	
	コスト削減の余地	1 / 6								
	⑦類似の事業はない。 ⑧建設する場合にPFI等を検討する余地はある。管理の民間委託については個人情報の取扱いもあることから検討していない。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑨入居者は収入基準により算定した家賃を負担している。 ⑩公営住宅法等による家賃を負担しているので見直しはできない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	⑨入居者は収入基準により算定した家賃を負担している。 ⑩公営住宅法等による家賃を負担しているので見直しはできない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
⑨入居者は収入基準により算定した家賃を負担している。 ⑩公営住宅法等による家賃を負担しているので見直しはできない。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

来年度、建替えの際にPFI方式で行うメリットがあるかを検証する導入可能性調査を行う予定。